

展示 PICK UP

■2F パープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン ~11/17(金)

都市開発と保存

～日比谷通りの昔・今・これから～



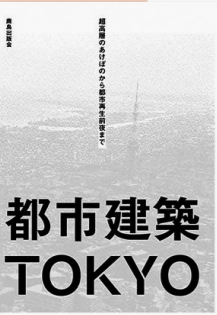
内幸町一丁目街区など日比谷通り境界では現在、再開発事業が行われています。本展示では、日比谷通り沿いの変遷を特に建物に注目して、都市開発や建物の建築・保存に関する本を紹介し、再開発で新しく作られるものや、文化財などの保存すべきもの、変わるものと変えないものに目を向けていただければと思います。



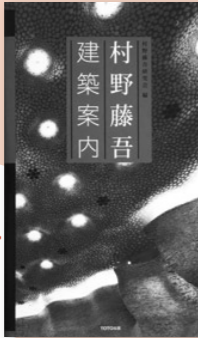
本展示で取り上げている建物に関するミニ雑学で装飾



日比谷通り沿いにある建物についてミニパネルで紹介



『都市建築TOKYO』
●都市建築TOKYO 編集委員会 編著
●鹿島出版会
●2021年



『村野藤吾建築案内』
●村野藤吾研究会 編集
●TOTO出版
●2009年

■2F エレベーターホール ~10/4(水)

●日比谷カレッジ 「ケルト文化と循環する生命」
—「渦巻文様」を読み解く— 関連展示

10月4日に開催される日比谷カレッジ「ケルト文化と循環する生命—「渦巻文様」を読み解く—」にあわせて関連図書の展示を行っています。ケルト文化の豊かな自然観・生命観が反映された渦巻・動物・結び目・組紐などの力強い文様やデザイン、神話・伝説などを通して、ケルトの文化芸術に触れてみませんか。



『ケルトの魂』
●鶴岡 真弓 著
●平凡社
●2019年

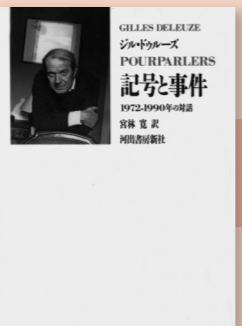


『図説ヨーロッパの装飾文様』
●浜本 隆志 著
●河出書房新社
●2022年

■3F ブルーゾーン【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン ~10/13(金)

「新しい」フランス

1858年の国交樹立以降、日仏両国は様々な分野で深く影響しあってきました。交流165年目を迎える当年、「新しい」フランス」と題し、9つのテーマからフランスに関する資料を前期・後期に分けてご紹介します。後期は政治、哲学、ファッション、映画、音楽の5テーマです。ぜひ、馴染みのなかったテーマの本も手に取って下さい。



『記号と事件』
●ジル・ドゥルーズ 著
●河出書房新社
●1992年



『「黄色いベスト」と底辺からの社会運動』
●尾上 修悟 著
●明石書店
●2019年

9月の展示情報

※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 三角台
特別展 関東大震災100年
「首都東京の復興ものがたり」
—未来へ繋ぐ100年の記憶— 関連展示 (9/1~11/26) NEW!
関東大震災の発生から復興までの道のりを記録した資料や、今後起こりうる災害に備え、地震の知識や備蓄品など身を守る方法を学ぶ資料を展示します。

3F グリーンゾーン
「Sleeping Books」(～9/15)
日比谷図書文化館の蔵書のうち、専門性の高さや時流など様々な要因で本棚に隠れている本たち。今回はそんな本の中から、開館当初に出版されたものに焦点を当てて紹介します。眠っている本を発掘すると同時に、再び手に取ってもらうきっかけとなる展示です。



復興後の秋葉原に完成した神田青果市場 昭和3年(1928)

首都東京の復興ものがたり
—未来へ繋ぐ100年の記憶—

特別展 関東大震災100年

1923年9月1日11時58分に発生した関東大震災は、東京に未曾有の被害をもたらしました。この震災により、江戸から受け継いだ町並みは失われ、多くの人命が犠牲となりました。しかし、その後の復興事業では、未来を見据えた先進的な取り組みがなされ、戦後の首都東京の発展を支えます。本展では、「首都東京の復興」をテーマ

に都市が経験した震災復興の歴史を振り返ります。近年は、復興事業に関する資料の発掘が進み、復興期の人々の様子も詳しく分かってきています。関東大震災から100年という節目の年に、当時の人々が何を感じ、どのように振舞ったのか、人々の記憶を紐解きながら彼らが直面した大災害と復興の物語をたどります。



日比谷音楽堂倒壊実況 大正12年(1923)

会期 9月1日(金)～11月26日(日)

※前後期で展示替えあり ◎前期:9月1日(金)～10月15日(日) ◎後期:10月20日(金)～11月26日(日) ◎休室日:10月17日(火)～10月19日(木) ◎休館日:第3月曜日 ◎開室時間:月～木・土 10:00～19:00、金 10:00～20:00、日・祝 10:00～17:00(入室は閉室の15分前) ◎会場:日比谷図書文化館1階特別展示室 ◎主催:千代田区、千代田区教育委員会 ◎協力:日本建築学会 建築歴史・意匠委員会 帝都復興事業調査研究ワーキンググループ、日比谷図書文化館

学芸員によるギャラリートーク

■日時:9月15日(金)、10月6日(金)、10月27日(金)、11月10日(金) 各回18:30～(約30分)
■定員:先着20名 ■参加費無料 ※直接、1階特別展示室へお集まりください(事前申込不要)

まち歩き「震災復興の痕跡を訪ねてみよう」

■日時:10月14日(土)10:00～(2時間程度) ■場所:神田須田町界隈など
■定員:抽選15名 ■参加費:500円

【申込方法】往復はがきに①講座名、②郵便番号・住所、③参加者全員の氏名(よみがな)、④年齢、⑤電話番号を記入し、申込先へ郵送してください。※往復はがき1枚につき2名まで
申込締切:9月22日(金)必着 申込先:〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 日比谷図書文化館 施設事務室

1 一青年の見た関東大震災
～旧結城藩・水野勝邦の震災アルバム～
●日時:9月30日(土)14:00～15:30(13:30開場)
●講師:長谷川 怜(皇學館大学准教授)

2 震災から復興する
小学校と新時代の教育
●日時:10月21日(土)14:00～15:30(13:30開場)
●講師:小林 正泰(共立女子大学准教授)

3 関東大震災に遭った文豪・学者たち
—芥川龍之介・柳田国男・折口信夫 他—
●日時:11月11日(土)14:00～15:30(13:30開場)
●講師:畑中 章宏(作家・民俗学者)

《各回共通》◎会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ●定員:200名 ●参加費:500円

calendar							calendar						
2023年 9月							2023年 10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	1	2	3	4	5	6	7
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				

掲載されている内容について変更や中止となる場合があります。最新情報は、ホームページ等をご確認ください。

9・10月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

9/1 (金)他 ジェンダーについて考えよう Vol.1 多様な「性」を考える ー日本の歴史と世界の文化に探るー(全2回)

講師：三橋 順子(性社会文化史研究者)

日本の歴史と世界の文化から、現代の「LGBT+」につながる多様な「性」のあり方を考えます。男性同性間性愛や性別越境の文化は、現代だけではなく、長く豊かな歴史をもっていることをお話しします。前編では歴史の中の男性同性間性愛(男色)文化の諸相を、後編では日本の歴史の中に見える性別越境文化の諸相についてお話しします。



奥村政信「閨の雛形」より

- 日時:9月1日(金)19:00～20:30(18:30開場) 前編 ー男性同性間性愛の文化を中心にー
- 10月13日(金)19:00～20:30(18:30開場) 後編 ー性別越境の文化を中心にー

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:2000円(全2回分)

※各回のお申し込みはできません。前編参加時に一括でのお支払いをお願いします。

9/2 (土) 古書で紐解く近現代史セミナー 第44回 新発見の後藤新平資料から読み解く震災・復興

講師：伏見 岳人(東北大学大学院法学研究科教授)

今から100年前の1923年9月1日昼に、関東大震災は発生しました。この未曾有の災害からの復興を指揮した政治家が、後藤新平です。近年、この震災復興に関する新資料が発見されました。本講座では、当時の動きを新たな資料と視点からとらえ直し、現代の防災への教訓を探っていきます。(協力:公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所 市政専門図書館)



後藤新平(ビーアド博士 著『東京市政論』/1923年)

■日時:9月2日(土)14:00～15:30(13:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1000円(千代田区民・学生500円)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

9/8 (金) 初代国立劇場さよなら公演×日比谷カレッジ 国立劇場の思い出 ー制作の視点から

講師：神山 彰(明治大学名誉教授)

国立劇場とのコラボカレッジ第3弾では舞台の花である役者と、衣裳や道具を作る職人などをつなぐ制作の世界を見ていきます。約20年、国立劇場制作室で勤務していた神山彰氏が、国立劇場の「記憶遺産」としての魅力を、舞台制作の裏話と思い出エピソードと共にお話しします。(協力:国立劇場)



■日時:9月8日(金)19:00～20:30(18:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1000円

9/28 (木) 名画のなかの"恋人たち"ーAI時代に問われる絵画の意義 第3回「ゴッホとゴーギャン ー男同士の友情なくして名画は生まれなかった」

講師：永井 龍之介(永井画廊 代表取締役)

ゴッホとゴーギャン。その名前を聞くだけで、彼らの息遣いまで聞こえてくるファンは多いと思います。絵画だけでなく、文学、映画、演劇等でも数多く取り上げられ、その人間像、人生まで深く掘り下げられている彼ら以上の画家は他に知りません。個性豊かな二人が1888年晩秋フランスアルルで過ごした共同生活は、ゴッホの"耳切り"で終了しましたが、その2ヶ月強の時間が歴史を変えました。二人の友情なくして名画が生まれなかった"人間ドラマ"をお話しします。



ポール・ゴーギャン <肘掛け椅子のひまわり> 1901年

■日時:9月28日(木)19:00～20:30(18:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1000円

9/29 (金) 千代田区内ミュージアム連携企画 展覧会への入口講座Vol.37 「春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」 実は見逃せない美術団体だった!

講師：田中 晴子(東京ステーションギャラリー学芸室長)

民間の歴史ある美術団体春陽会の、創立から1950年代頃までの展開を、裏話を交えながら解説します。小杉放菴、木村荘八など多くの著名な画家たちがこの会で活躍しました。個性ある画家たちが春陽会の展覧会で発表していたのは、どの様な作品だったのかお話しします。



岡鹿之助《山麓》 1957年 京都国立近代美術館

■日時:9月29日(金)14:00～15:30(13:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1000円(千代田区民500円)

10/4 (水) ケルト文化と循環する生命 ー「渦巻文様」を読み解く

講師：鶴岡 真弓(多摩美術大学名誉教授)

ケルトの人々の豊かな自然観・生命観は、『ケルズの書』に見られる神秘的な文様・デザインに反映され、アール・ヌーヴォーにも影響を与えました。ケルト文化によって伝えられてきた神話・伝説、美術・考古を通して、日本人の心と響き合う文化芸術の特色に迫ります。

■日時:10月4日(水)19:00～20:30(18:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1000円

10/6 (金)他 日本社会と睡眠(全2回)

世界最低水準の睡眠時間となってしまった日本。その経済的損失は15～18兆円ともいわれています。睡眠不足の根底にある日本社会全体の睡眠に対する意識の低さに目を向け、医学と文化の二つの側面から睡眠のとれる社会にするには何が必要か、考えていきます。(企画・協力:睡眠文化研究会)

■日時:10月6日(金)19:00～20:30(18:30開場)

第1回「睡眠の謎に挑む ～基礎研究から社会実装まで～」

講師：柳沢 正史(筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構構長・教授)

10月27日(金)19:00～20:30(18:30開場)

第2回「日本人はなぜ眠らないのか:日本の睡眠意識から未来を考える」

講師：豊田 由貴夫(立教大学名誉教授)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:各回200名 ■参加費:各回1000円

※各回申込が可能です。

10/11 (水) 上廣・日比谷ライブラリー・レクチャー 私のチャレンジ人生 第2回「生命の進化をめぐる誤解の数々」

講師：長谷川 眞理子(人類学者)

「進化」という言葉は、ものごとが発展していくことや進歩していくこととして、日常的に使われています。しかし、生物学の用語としての進化には「世代を経た変化」という定義があり、進歩などの意味は含んでいません。そんなこんなで、生物の進化については誤解があふれています。本講座では、それらの誤解を正すとともに、人間の未来についても考えてみたいと思います。

■日時:10月11日(水)19:00～20:30(18:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:500円(千代田区民・学生は無料)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

10/18 (水) HIBIYA PARK TERRACE 120 CINEMA TERRACE × 日比谷カレッジ その音楽とともに、旅へ。

～ヴィム・ヴェンダース監督作品のサウンドトラックを聴く～

講師：志田 一穂(ラジオDJ、文筆家)

ニュー・ジャーマン・シネマの旗手として現れたヴィム・ヴェンダース監督は、自身のルーツに“音楽”があると公言。欧米のロック、ライ・クーダーのライド・ギター、賑やかなキューバ音楽に、ドイツのユルゲン・クニーパーによる弦楽奏など、どれもが印象的に使用されてきました。そうした音楽と共に、様々な国を旅しながら、彼の作品群を探求していきます。

■日時:10月18日(水)19:00～20:30(18:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1000円

EVEN T HIBIYA PARK TERRACE 120 CINEMA TERRACE

日比谷公園開園120周年を記念しエンタの街日比谷にちなみ、

映画をテーマにコンサートやマルシェ、ワークショップを開催。

詳細は9月上旬日比谷公園HPにて公開予定。

●日時:10月7日(土)・8日(日)11:00～16:00 ●場所:日比谷公園 小音楽堂ほか

10/19 (木) 「日比谷オペラ塾」2023/2024シーズン開幕特別講演会 作家:深水黎一郎が語る 『ミステリー的オペラ鑑賞術』ー演出を中心にー

講師：深水 黎一郎(作家)

本講座は、『トスカ』の上演中に殺人事件が起きる『トスカの接吻オペラ・ミステリーオーザ』(講談社文庫)などオペラや音楽を題材にした作品も多い深水黎一郎氏に『ドン・ジョヴァンニ』などのオペラを中心に「ミステリー小説的な手法を応用したオペラ演出の可能性」について探っていただきます。

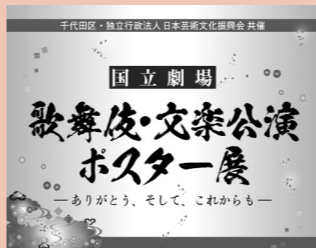
(主催:フェニーチェ劇場友の会、共催:日比谷図書文化館)

■日時:10月19日(木)19:00～20:30(18:30開場)

■会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)

■定員:200名 ■参加費:1500円

From Chiyoda Public Library【千代田区立図書館からのお知らせ】



伝統芸能の拠点として昭和41年11月に開場した国立劇場は、建て替えのため、2023年10月末で一時的閉場します。本展示では、開場から57年間に行われた数々の名公演の中から37公演のポスターを展示し、これまでの歴史を振り返ります。

●会期:8月28日(月)～11月25日(土)

※9月24日(日)・10月21日(土)～23日(月)は休館

●場所:千代田図書館9階 展示ウォール

特別研究室企画展示

震災の記録と復興の足跡

関東大震災から100年の節目の年、特別研究室では当室所蔵の震災の記録と市政専門図書館所蔵の復興関連資料(復興道路、公園、橋梁、小学校)から関東大震災を振り返り、防災について考えるきっかけとする展示を開催します。関東大震災復興のシンボルとなった市政会館(東京都指定有形文化財)の建築模型(制作:今村仁美/アトリエ イマージュ)もあわせて展示します。



尋ね人の貼り紙がされた西郷隆盛像(宮武外骨著『震災画報』1923年)

● 主な展示資料(予定)

『震災画報 全』(1923-24年) 『帝都大震災一覧』(1923年)

『National Geographic Magazine』1923年10月号 ほか

● 期間:2023年9月1日(金)～10月31日(火)

● 開室時間:平日10:00～20:00、土曜10:00～18:00、

日曜・祝日10:00～16:00 ● 会場:4階特別研究室

● 協力:公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所 市政専門図書館、今村仁美(アトリエ イマージュ)

関連講座 建築模型ワークショップ

10/14 (土) 紙とボードで日比谷公会堂をつくる

講師：今村 仁美(アトリエ イマージュ代表)

かつて「日本のカーネギーホール」と称された日比谷公会堂(東京都指定有形文化財)は1929(昭和4)年に竣工し、関東大震災復興のシンボルとなりました。今回のワークショップでは関東大震災から100年にちなみ、動画を見ながら模型制作キットを使用して日比谷公会堂の模型を作り、額縁に入れて仕上げます。



(協力:公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所)

■日時:10月14日(土)14:00～17:00(13:30開場)

■会場:4階スタジオプラス(小ホール) ■定員:20名 ■参加費:3000円(材料費込み)

古文書塾てらこや体験講座 ◆各講座1,000円

古文書専門塾として、初心者から経験者まで楽しみながら学習を進めています。9月期の開講に合わせ、古文書の世界に無理なく入っていける「体験講座」をご用意しました。まずはお試しください。



	講座名	曜日・時間	実施日
入門コース 120分	古文書のいろは 筆字のくずし字	(月) 10:30～	9/11
		(月) 13:30～	9/11
		(火) 10:30～	9/12
		(木) 13:30～	9/7
		(金) 13:30～	9/8
		(金) 18:30～	9/8
本科コース 120分	文人画と碑文ー掛軸を読む 古文書の保存・修復の知技能ー古文書保存のセラピスト講座 武家文書を読むー幕府崩壊事情 幕末・江戸庶民の世相を読むー「弘化雑記」の世界 くずし字で楽しむ江戸歌舞伎	(日) 13:30～	9/3
		(火) 13:30～	9/12
		(水) 13:30～	9/6
		(木) 10:30～	9/14
		(土) 13:00～	9/2
		(火) 19:00～	9/12
特別講座 90分	開国ニッポンの外国人 江戸を楽しむー江戸の寺社あれこれ 江戸・明治の書状を読むー形式と内容、一歩から	(水) 13:30～	9/13
		(木) 18:30～	9/14
		(金) 18:30～	9/8
特設 月1回コース 90分	ハーバード大学蔵『源氏物語 須磨』を読む 陽明文庫蔵『源氏物語 桐壺』を読む	(金) 13:00～	9/15
		(金) 15:30～	9/15

■会場:4階スタジオプラス、セミナールーム ■定員:各講座23名(申込順)

■費用:各講座1000円 ■資料請求・体験講座のお問い合わせ:電話(03-3502-3340) 日比谷図書文化館代表 古文書塾てらこや担当迄